

No. 336【2018年12月21日配信】

森山弥七郎と森山内蔵之助(担当:工藤)

こんにちは! 室長の工藤です。

「青森市の歴史上の人物」をひとりあげるとすれば、誰が思い浮かぶでしょうか。なかなか思い当たらない…かもしれませんが、森山弥七郎をあげる人は少なからずいるのではないかと思います。彼は、藩政時代における青森町のまち作りに尽力した人物とされています。そして、青森の町づくりは明治時代の末期頃から「開港」と表現されることが多いので、彼は「開港の恩人」などと形容されてもいます。

さて、森山弥七郎という人物は、油川の浄満寺に「元祖森山弥七郎」と刻まれた供養碑があり、「弘前藩庁日記 御国日記」(以下、「国日記」)に寛永3年(1626)4月6日付で2代藩主津軽信枚が「青森の町立て(まち作り)」を指示する文書の写しがあり、そこに「森山弥七郎」と記されていることから、実在しています。



「元祖森山弥七郎」と刻まれた供養碑(浄満寺)

ところが、彼の没年はさきの供養碑に刻まれた日付から寛文6年(1666)2月3日とされていますが、「国日記」で寛文6年2月に亡くなった森山姓の人物は「内蔵之助」なのです。弥七郎と内蔵之助は果して同一人物なのでしょうか。

これについて、『青森県人名大辞典』(東奥日報社、1969年)は「森山内蔵之助信実」と項目を立て、弥七郎は「幼名」としています。幼名を国語辞典でいうように「元服以前の呼び名」と解釈すると、幼くして亡くなったのであればともかく、供養碑に幼名を用いるのは不自然であるし、「国日記」の寛永3年は通説によると森山はすでに50歳を過ぎているので、ここも幼名表記は考えにくいのです。ですから、「弥七郎幼名説」は成り立たちません。

もうひとつ紹介すると、『青森市史』人物編(青森市、1955年)は「森山(内脱-引用者注)蔵之助弥七郎」としています。これについては史料表記上確認できず、さらに「国日記」では、寛文4年から内蔵之助とは別人の森山弥七郎という人物が現れるので、「(内)蔵之助弥七郎説」も蓋然性は低いと思います。なお、内蔵之助と弥七郎は親子関係にあると見立てています。もちろん、この弥七郎が私たちの知る森山弥七郎とするには、史料に登場する時期が遅いと思います。

このように、弥七郎と内蔵之助は同一人物と目されているのですが、その説明は合理的ではないのです。ただ、私もふたりは同一人物であるとみています。しかし、その理由は今回紹介したふたつの説とは異なります。これについては来年、最近みつけた史料の紹介とともに申し上げたいと思います。